

高浜町 マリンビジョンニュース 第3号

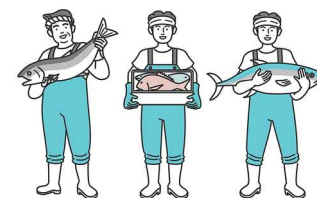
2025年(令和7年)11月7日(金曜日)

編集・発行：高浜町産業振興課

〒919-2225 高浜町宮崎第86号23番地2

電話：0770-72-7705 FAX:0770-72-4000

メールアドレス：machi@town.takahama.lg.jp



TAKAHAMA TAWN MARINE VISION REPORT-No3

第3回委員会が開催されました

■第3回高浜町マリンビジョン策定委員会が開催されました

第2回高浜町マリンビジョン策定委員会(9月19日開催)に引き続き、去る令和7(2025)年10月21日(火曜日)14時から、第3回目の委員会が、高浜町役場の第1・2会議室で開催されました。

渡慶次委員長(福井県立大准教授)の進行により、今回も参加委員による円滑で活発な意見交換の場になりました。

また、別件で来町されていた水産庁信夫次長が委員会後半から出席され、高浜町における海業振興とマリンビジョンにエールをいただきました。

第2回委員会での、将来の高浜町の活性化に向けた「海業振興」、「流通・加工」、「人口・就業者(担い手)」をテーマにした、2テーブル(漁業関係者中心のテーブルと観光や流通中心のテーブル)セッションの結果を踏まえて、同じく2つのテーブルに分かれ、高浜町における「海業」振興の未来に関する熱心な意見交換が行われました。

最後にテーブル毎に代表者が「海業」振興についてどのような意見がでたかを発表し、異なる立場の人が何を考えているのかを知る良い機会になりました。

その後、事務局から最終的な高浜町マリンビジョン構成案イメージが紹介され、委員の了承を得ました。



(委員会での意見交換の様子)

■第3回委員会の進め方

話題提供(事務局)

①第2回委員会の振り返り

第2回委員会での話し合いの結果をまとめて、委員のみなさんに共有しました。

②テーブルセッション(2テーブルに分かれ、自由討論)

Aテーブル(漁業関係者中心)

Bテーブル(観光他関係者中心)

共通テーマとして、今後の高浜町における「海業」の振興について、高浜町の強み弱み及び、外から見た強み弱みの視点で意見交換を行いました。

Aテーブル検討結果の発表

Bテーブル検討結果の発表

委員全員による異なる立場の人たちの意見の共有

最終的な「高浜町マリンビジョン」策定(構成)案イメージの確認

AテーブルとBテーブルの意見発表

テーブルセッションの後、2テーブル毎に、代表者が、高浜町における「海業振興」をテーマに話し合われた結果を発表しました。それぞれの立場により、異なる意見があることが委員全員に認識され、次回以降、委員会で予定されている高浜町マリンビジョンの具体的な内容の議論に向けた貴重な情報が共有されました。

■Aテーブル(漁業関係者中心メンバー)の主な意見交換結果発表

基本的に観光でやって来る人に、高浜に住んでみたいと思ってもらうにはどうしたらいいかということをメインに話しました。内浦地域では、外から来た釣り人が漁港を中心に釣りをする場がいくつかあります。漁港などで釣りをする人は、京都や大阪などやや遠方から来られる方が多いようです。

海業振興に関する高浜町の強みですが、「海がきれい」とか「青葉山等の自然のアクティビティが豊富」といった点があがりました。その他「空き家が最近利用されてきて、外から来た人や外国の方に住んでもらう」という話もありました。

過疎高齢化が進み地域活性化の必要が大きい「内浦地域で海業を振興する力になってくれそうな漁師(養殖漁業者)が3人いる」という話も出て「少人数でも元気な漁師さんや民間のダイビング事業者が内浦の海業をひっぱっていくことができるのではないか」という期待の声も聞けました。

一方、高浜の弱みについては、「お土産などの種類が少ない」、「釣り客などのゴミやマナーの問題がある」ことに加え、「このような問題に対応できる人手不足」などの意見があがりました。弱みというか問題は大変多いので、海業振興に向けて、今後解決していかなければいけない課題自体は多いと思います。

外からみた強みですが、基本的には観光客、釣り、サーフィン、特に内浦地域では、民間ダイビングショップを通じてダイビング客が多く、民間事業者と協力・連携して、地元の良さ知ってもらうことが重要です。高浜に住みたいと思うようになる人の拡大に向けたアピールにつながっていくのではないかと話もありました。さらに、「高浜町では最近、テレビやSNSで発信することが多く、効果が出てきているのでは」「上瀬区から海岸沿いに舞鶴まで周回できる道路が欲しい」との意見もありました。次に外からみた弱みですが、「人に来てもらってもあまり地元にお金が落ちないのでは」という意見がありました。経済的効果は、現実的には弱そうだということです。例えば、「日帰りの人が増えた」という話があり、「宿泊施設はあるが、泊まる人より高速道路を使って帰宅する人が多い」のではないかと意見が多く聞かれました。

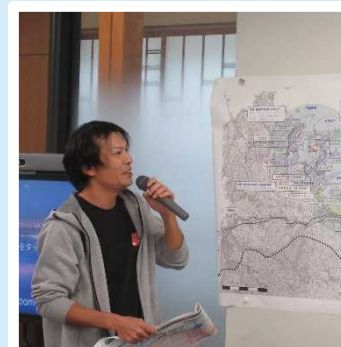
魚が美味しいなどのPRの点でも、「魚が美味しいだけでは、海が近いのは近隣地域と同じ条件なので差別化としては弱い」、つまり、高浜だけの売りにはならないという意見です。

スーパーの魚売場が好き。高浜独自の1点物が欲しい



福井県立大生もひとこと

旅は旅先の“人”が目当て→地元の人と出会える場の情報が欲しい



(Aグループ代表者の発表)

■Bテーブル(観光関係者他メンバー)の主な意見交換結果発表

ザックバランに、思いつきのような感じでみんなの意見を出し合ったのですが、なんとなく最後はまとまってきたのかなと思います。

まず、交通です。「国道や駅と海が結構近いので交通的にはすごくいい場所にある」との意見がありました。しかし、電車をみると、1時間に1本しかなかったり、大阪への直通バスも無くなったりと、公共交通の便自体は悪くなっている。一方、自家用車などで来るのはすごく来やすい場所なのは利点だとの話がありました。

また、海業振興に向けた「コンテンツ自体は結構ある」との意見が上がりました。「海水浴」があり、「宿」ももちろんあるし、「内浦のきれいな風景」もある。「城山」もある、「魚」もある、「釣り」もある、「サーフィン」もある。しかし、コンテンツは色々あるけれども、1日高浜で過ごせるコンテンツが、あんまりないというのが若干弱みだと思います。僕も実際に友達が来た時に、1日過ごせなくて、雪が見たいと敦賀に行かれちゃったりしました。1日お勧めできるコースがない。半日でさえない。なにかそういう、「1日過ごせるような体験パックみたいなものがない」といったことが弱みかなという話がでました。

また、「一見さんが、結構来づらい」との意見もありました。例えば、サーフィンや釣り客は目的を持って来ているのですが、それ以外の人に向けたコンテンツが、あんまりないというのが、過ごしづらい要因なのかもしれません。町内の旅館に泊まる人も、天橋立観光の中継地点になっているみたい。高浜でそのまま一定期間過ごすという方向になりにくい。

魅力的なコンテンツというのは、結構難しい。しかし、逆に考えると、コアなコンテンツみたいなところに焦点を絞って間口を広げるっていうのもありかなと思います。よく若い人に、「漁師さんとの接点が欲しい」といったことをいわれます。漁師の案内人みたいな人がいてくれると、ちょうどいい接点になるのかなと思います。漁師にどうやって利益のある形が作れるか、というのを考えながら、外の人と漁師の接点、ひいてはローカルの魅力をちゃんと伝えていける接点みたいなものがあればいいだろうなと思います。それにはやはり、宿の人も、ビーチサイドの人も船でカフェみたいな、飲食店みたいなところも含めて、これだけ海関係で色々な業種の人が集まっているとこなので、色々相互に連携していくことが重要なかなと思います。



(Bグループ代表者の発表)

第3回 高浜町マリンビジョン検討委員会が出た主な意見(テーブルセッションの概要)

令和7年10月21日に開催された「第3回高浜町マリンビジョン検討委員会」のテーブルセッションで出された主な意見を下図にまとめました。将来の高浜町における「海業振興」に向けて、2テーブルに分かれ、高浜町の強み、弱みと、外部から見た強みと弱みについて活発な意見交換が行われました。

